



平成 20 年 6 月 18 日
独立行政法人国立科学博物館

筑波実験植物園にて 「リュウゼツランの仲間：サケリュウゼツ」が開花中

独立行政法人国立科学博物館筑波実験植物園（園長：加藤 雅啓）で、リュウゼツランの仲間：サケリュウゼツ（リュウゼツラン科）が開花していますのでお知らせ致します。

このサケリュウゼツは、筑波実験植物園で 1986 年から栽培されてきたもので、芽生えてから少なくとも 30 年以上は経過しているものです。当植物園において、この種の開花は開園以来初めてであり、6 月下旬までご覧になれます。

なお、「リュウゼツラン」の解説につきまして簡単にではありますが、別紙にて添付いたしますので、ご参照ください。

よろしくお願い申し上げます。

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

筑波地区事務部 庶務担当：石塚

担当研究員：岩科（植物研究部多様性解析・保全グループ長）

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL:029-851-5159 FAX:029-853-8998

E-mail: kishitsu@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP <http://www.kahaku.go.jp/>

国立科学博物館筑波実験植物園HP <http://www.tbk.kahaku.go.jp/>

「リュウゼツラン」とは？

リュウゼツラン(Agave)はリュウゼツラン科に属する植物群で、アメリカ大陸に分布しています。約100種、研究者によっては300種あるとされていますが、そのうち15種が筑波実験植物園に植栽されています。この仲間は開花するまでに芽生えてから40年、長いものでは100年かかるといわれ、「センチュリープランツ（1世紀の植物）」という英語名がつけられていますが、10年から20年で咲くともいわれています。この仲間の花茎は自生地では8m、時には16mにも達しますが、こんなに大きくても一度開花するとタケのように枯れてしまいます。リュウゼツランの名前は葉の形を龍の舌にたとえたもので、属名のAgaveにはギリシア神話にちなみ「壮麗な」「高貴な」という意味があります。

現在植物園では、リュウゼツランの仲間である「サケリュウゼツ」が4mほどの花茎を立ち上げて開花しています。別種のリュウゼツランもサバンナ温室とその周辺で3種ほどがつぼみをつけており、引き続き開花が見られそうです。



写真1 サケリュウゼツ 2008年2月 とげのある多肉質の長い葉が放射状についた株の中心から、サケリュウゼツの花茎が伸び始めました。



写真2 サケリュウゼツ 2008年5月 サケリュウゼツの花茎からつぼみのかたまりが姿を現しました。



写真3 サケリュウゼツ 2008年6月 サケリュウゼツの花が咲き始めました。クリーム色の花被片から、長いおしべが上向きに飛び出しています。花からは滴り落ちるほどの多量の蜜を分泌し、鳥によって花粉が運ばれていると思われます。

Agave atrovirens リュウゼツラン科

詳細情報はこちら <http://www.tbk.kahaku.go.jp/>

「リュウゼツラン」は、下記のサバンナ温室で見られます。

筑波実験植物園の園内マップ

